

令和元年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

## 2 萩藩主参勤交代の記録を読む（付録）

—元文二年四月「江戸被成御着候事」—

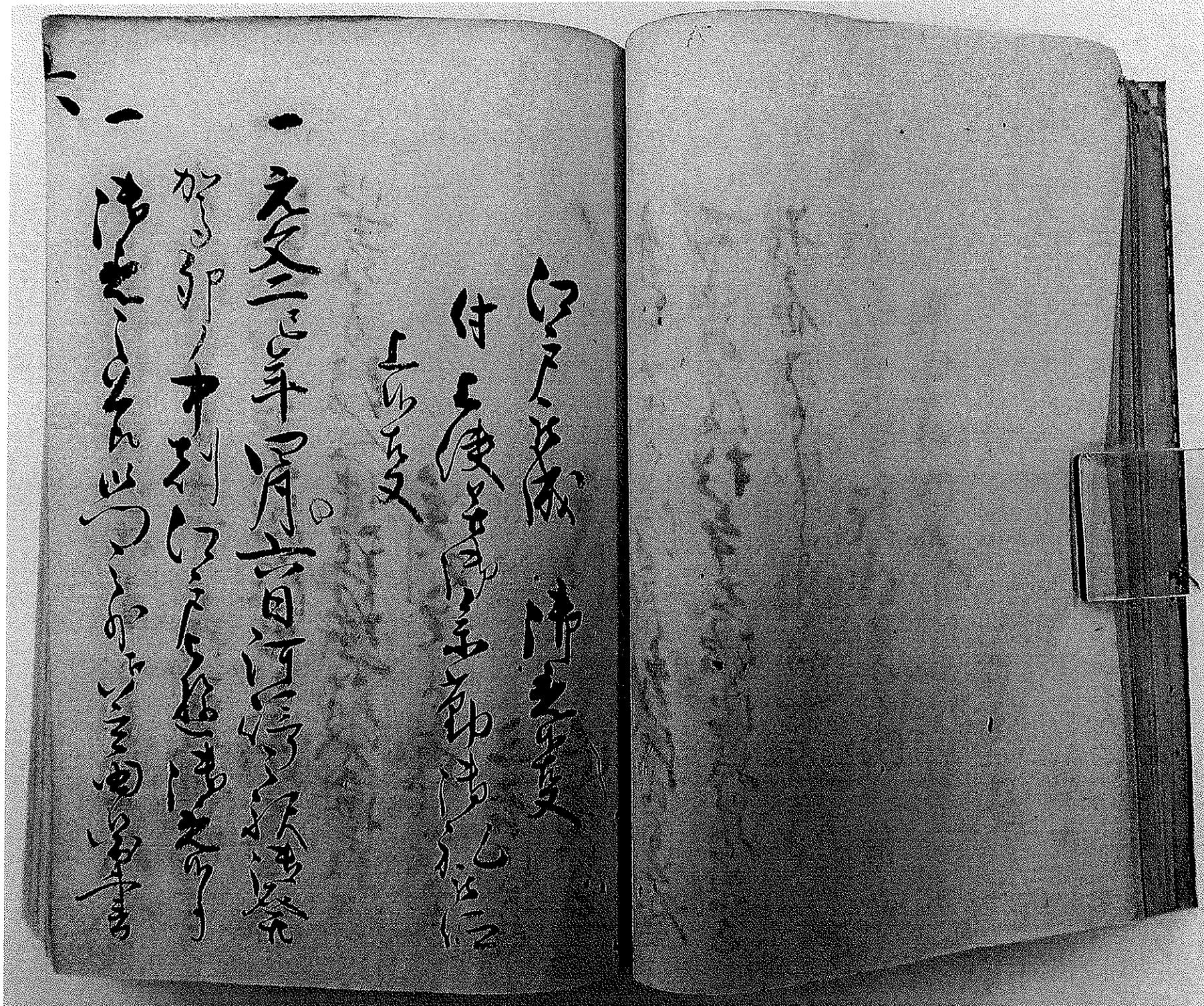
※毛利家文庫31小々控9（16の2）「諸事小々控」より

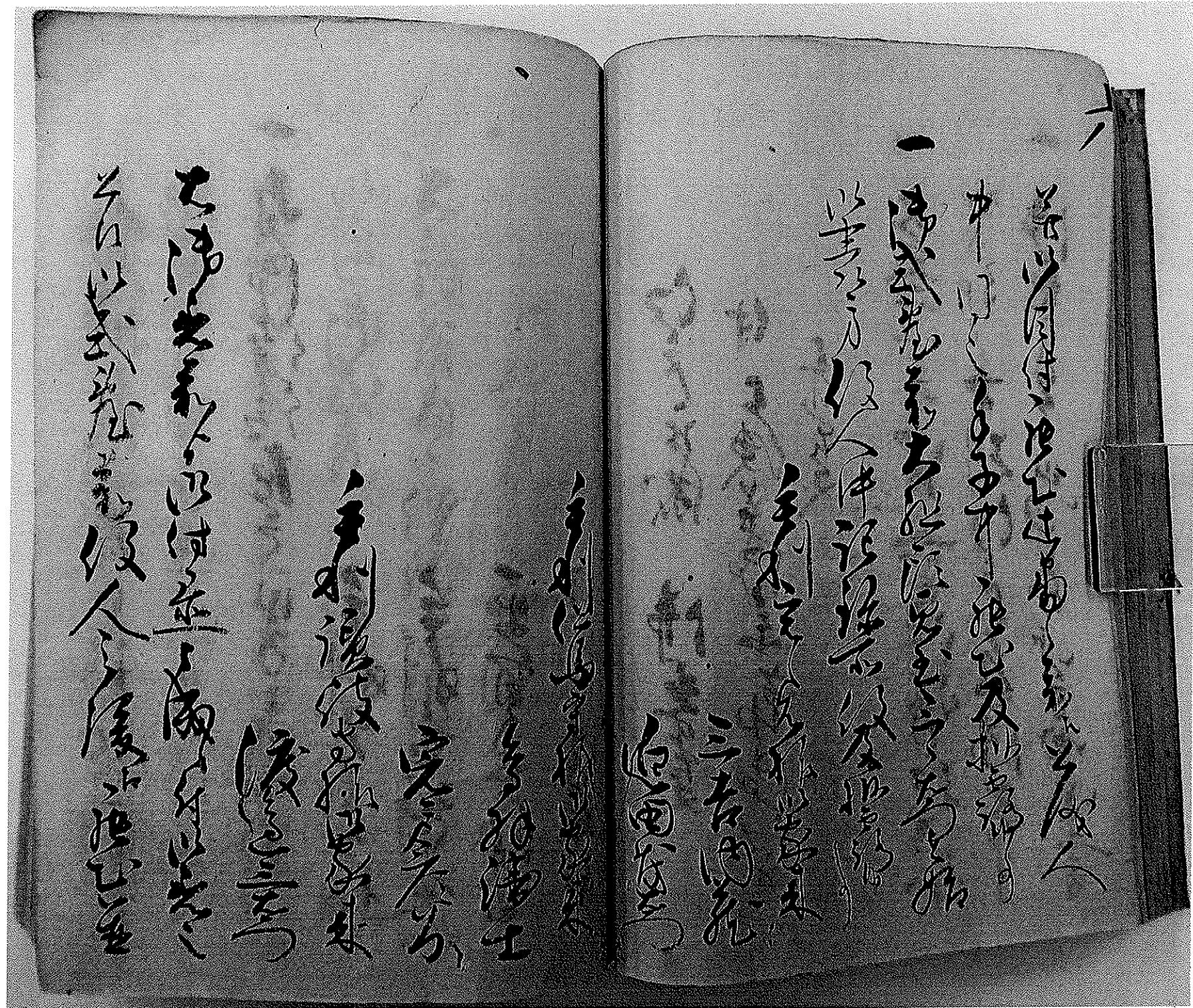
柱主殿  
保廣  
俊宁

諸夏小之扣

江戸

元文二年三月廿二日





おとづれ事の如きは見ゆる  
 もうけりとす  
 一あくまにまつたてて紫方へりておれ  
 おとづれ事の如きは見ゆる  
 もうけりとす  
 一あくまにまつたてて紫方へりておれ  
 おとづれ事の如きは見ゆる  
 もうけりとす  
 一あくまにまつたてて紫方へりておれ

松平大膳  
のひすい  
松平大膳  
のひすい  
松平大膳  
のひすい  
松平大膳  
のひすい

以て人間の事は本物を取  
り合つてはいけないと思ふ  
と万様に成る事は多  
いが、海平羽はおもて  
けの太く、腰も少し腰筋  
で、腰筋の上中でも、腰筋  
で、腰筋の上中でも、腰筋

有馬日向守門  
一柳源藏  
五右衛門  
三浦周作  
今井山  
田代正平  
高橋正興  
小林正義

大河内守門  
一柳源藏  
五右衛門  
三浦周作  
今井山  
田代正平  
高橋正興  
小林正義  
又村元行  
酒井名吉

東方の國の事は、わが國の  
國の事も、豈、其の事か。此の事は、

國の事だ。國の事だ。

國の事だ。國の事だ。國の事だ。  
國の事だ。國の事だ。國の事だ。

國の事だ。國の事だ。國の事だ。  
國の事だ。國の事だ。國の事だ。

國の事だ。

國の事だ。

國の事だ。

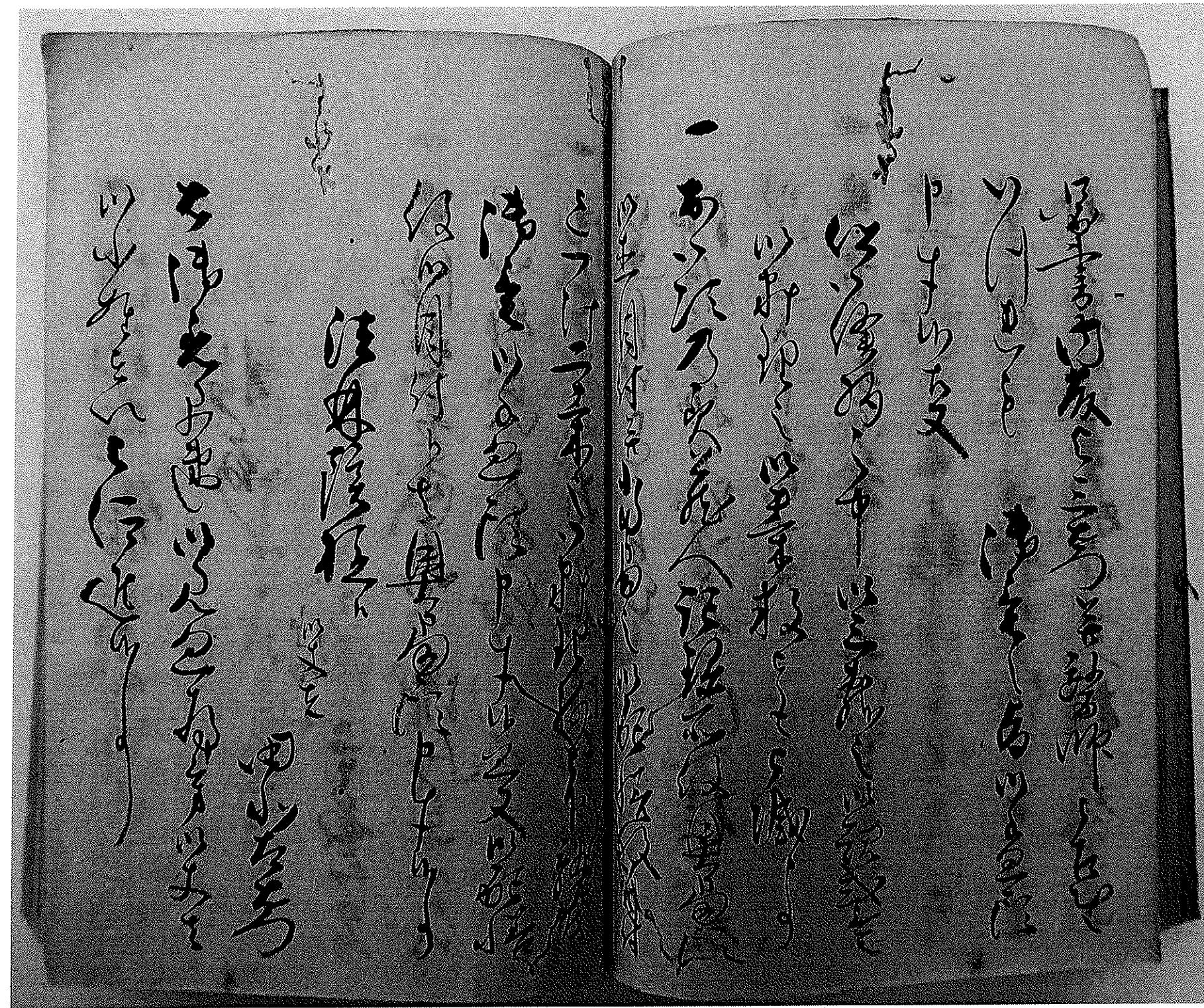
國の事だ。

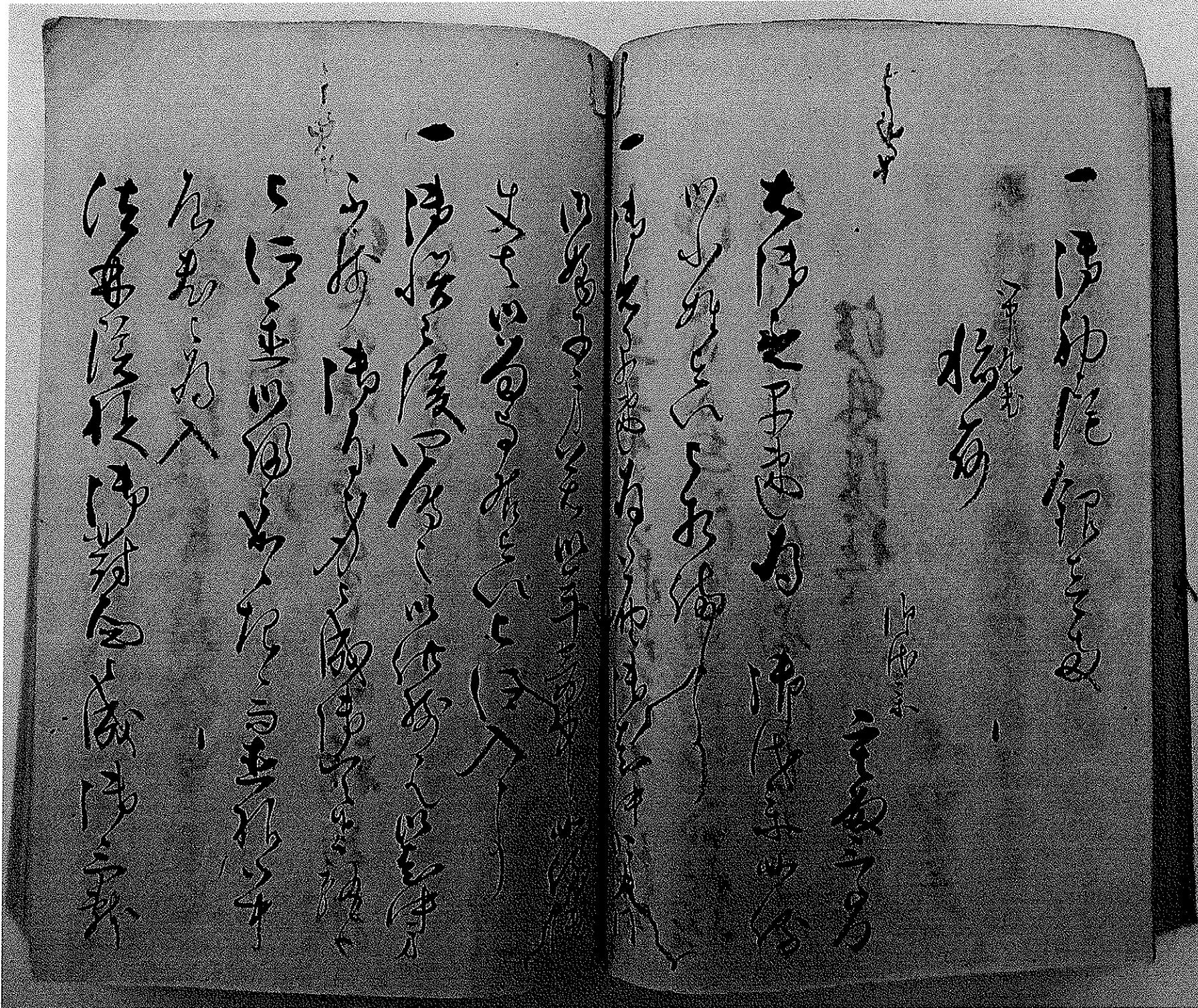
よりわざわざおもむかねの様子は見え  
在りし。よしとて、おまかせを爲  
お付及ひの御用。  
一も成る。お心のへんを  
お尋ね。お心清め。おまかせを爲  
おもむかね。よしとて、  
お付及ひの御用。  
一も成る。お心のへんを  
お尋ね。お心清め。おまかせを爲  
おもむかね。よしとて、  
お付及ひの御用。

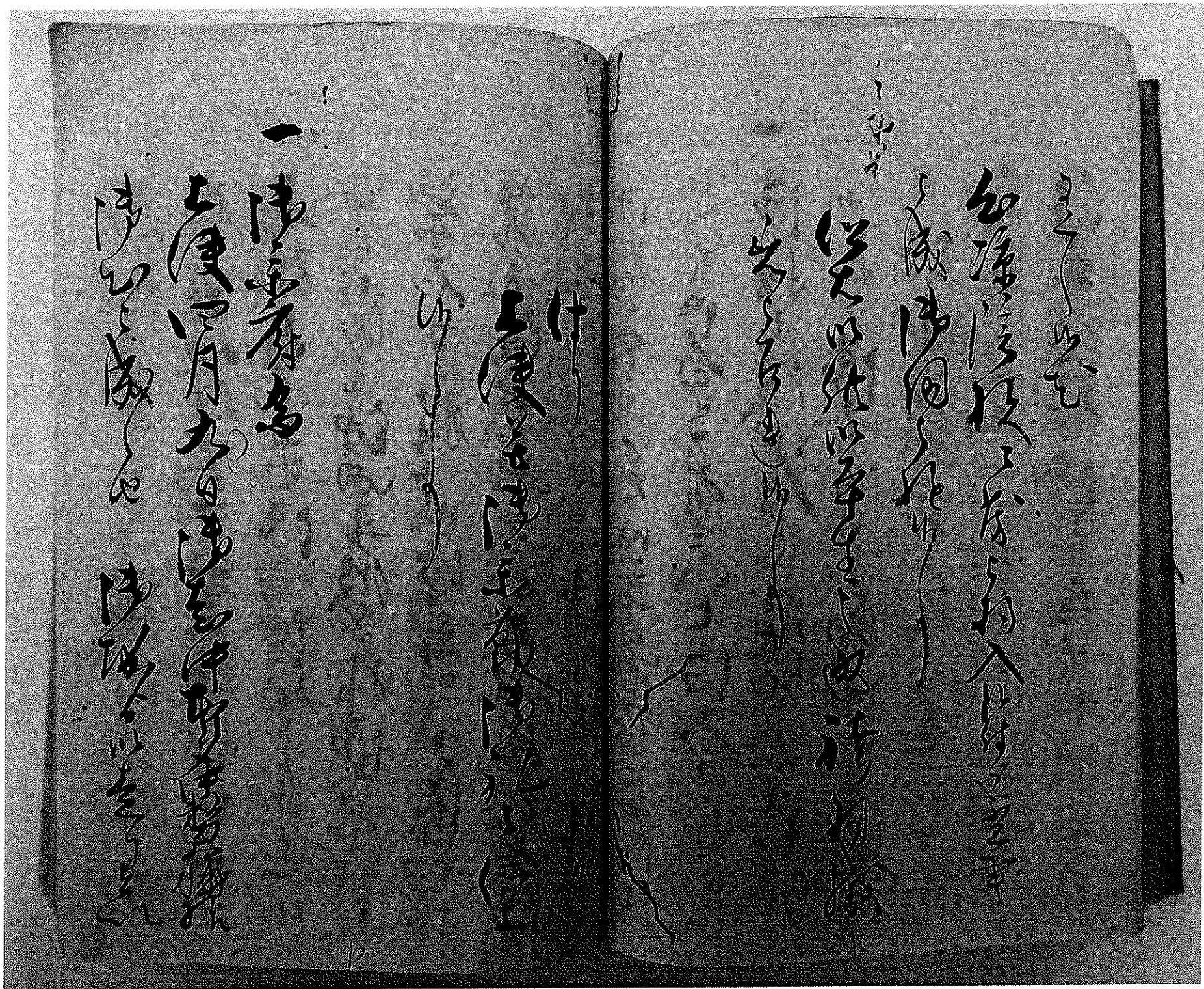
沙月アリハナの事といたる  
白木三郎の事は多事に記す  
特レシホトト 治部の名を以て  
うそつこひまくの事は更も  
尋ねる所なし

うかうかの事は之を出  
うかうかの事は之を出

沙月アリハナの事といたる  
白木三郎の事は多事に記す  
特レシホトト 治部の名を以て  
うそつこひまくの事は更も  
尋ねる所なし







かでござり候  
今日ノ事才をもて仕事  
成様あつたのであると  
いふに感心せし事であつた  
余不才が爲めに此の事  
上へ申す所は少く思ひ難  
成様おもてまへて下さる所  
おもてまへて下さる所



三月廿日  
天晴  
行至山中  
見一老翁  
持一竹竿  
立於山腰  
不知其何所為  
問之曰  
汝何不歸  
老翁笑曰  
吾家在山中  
已無田地  
惟有此竹  
可得一石  
以作耕種  
吾子亦復如  
是也

上  
山  
以  
身  
力  
之  
不  
能  
也  
而  
不  
忍  
舍  
其  
子  
也  
故  
名  
之  
曰  
捨  
子  
山

和  
書  
湯  
河  
方  
多  
引  
水  
也  
其  
水  
所  
經  
者  
皆  
黑  
色  
故  
名  
之  
曰  
黑  
河

一ノ月二ノ月の事はわざたがるが  
ツルハシの事はうその事だといふ事  
ある事はうその事だといふ事  
御書院の事はうその事だといふ事  
あんがうその事だといふ事  
いは御なままで年と年と  
おもむく事はうその事だといふ事  
ひかあんへつらうる事はうその事だといふ事  
御書院の事はうその事だといふ事  
一ノ月二ノ月の事はわざたがるが  
ツルハシの事はうその事だといふ事  
ある事はうその事だといふ事  
御書院の事はうその事だといふ事  
あんがうその事だといふ事  
いは御なままで年と年と  
おもむく事はうその事だといふ事  
ひかあんへつらうる事はうその事だといふ事  
御書院の事はうその事だといふ事

